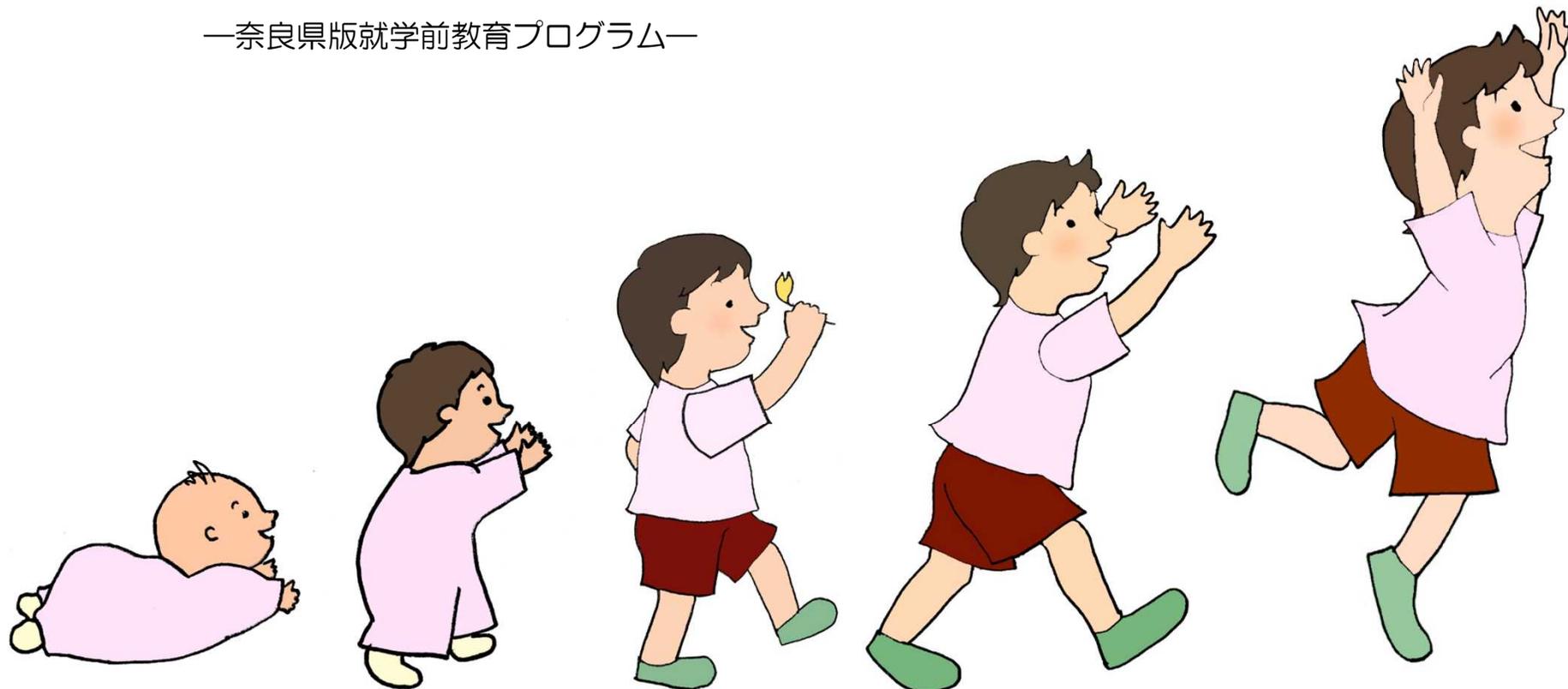


# ははたくなら

—奈良県版就学前教育プログラム—



—奈良県・奈良県教育委員会—

奈良県・奈良県教育委員会では、このたび、平成29年度に作成された「奈良県版就学前教育プログラム」を基に、本県の教育課題を踏まえ、子どもの発達の様とそれに合った教育課題の解決に向けた関わり方を示した改訂版プログラム「はばたくなら」を作成しました。

奈良県の就学前の子どもたちを健やかに育てるために、どのように教育・保育を進めるのかを確認できるようにしています。また、家庭や小学校との連携の際の参考にもしていただけるよう、子ども理解や遊びの中での子どもとの関わり方を中心にまとめています。

本県の就学前教育に関わる人々が本プログラムを奈良県の就学前教育の基本とし、日々の教育・保育の参考にできるようにまとめています。子ども理解を深めるためのワークシートや日々の記録、研修の際の教材等として活用し、自身の実践を書き込んだり、部分を取り上げたりして身近に置いて活用していただければ幸いです。

就学前教育に関わるすべての人々が、子どもたちが未来へ羽ばたく姿を共に描きながら、子どもたちの今を語り合うために「はばたくなら」を活用いただくことを願っています。

# もくじ

## 子ども理解を深める

I	奈良県版就学前教育プログラム作成の経緯	1
	・奈良県の教育課題との関連について	2
	・「奈良県版就学前教育プログラム」について	3
	・「はばたくなら ～奈良県版就学前教育プログラム～」における援助の重点	4
II	子どもの発達と教育内容	5
	・子どもの発達	6
	・子どもとの関わり	6
	・教育の「3つの視点」と「5領域」	7
	・子どもの発達に合わせた援助	8
III	子どもの発達と遊びの姿 ～環境の構成と幼児への関わりを深める～	10
	・～自尊感情（豊かな感性と表現等）～	11
	・～規範意識（道徳性・規範意識の芽生え等）～	19
	・～学習意欲（思考力の芽生え等）～	27

## 研修を深める

IV	研修の展開例及び研修資料 ～実践から評価・改善へ～	37
	・就学前教育に係る研修資料 ～実践事例から深める～	38
	・研修資料及び展開例	40
V	明日の“楽しい保育”につながる保育記録の工夫	45
	・奈良教育大学附属幼稚園の研究～「子どもたちの未来につながる“楽しい保育”の追及」から～	46

## 小学校なぐに

VI	小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」 ～幼小接続推進力～	55
	・小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と接続期の実践事例	56
	・「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の発達過程	58

## I 奈良県版就学前教育プログラム作成の経緯

本県における就学前教育の充実に対する認識の前提には、学齢期における指標となる「全国学力・学習状況調査」等において、意識に関わる「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」等に関連する項目の本県児童生徒の平均値は依然として全国平均に比べ低く、課題が見られることがあります。

これらの意識等の醸成を本県の子どもの教育課題と捉え、その解決のためには就学前からの教育の充実が必要であると考えました。そこで、これらの意識などの醸成につながる、幼児期における効果的な取組を検討し、本県の教育課題に即した「奈良県版就学前教育プログラム」として整理しました。

このたび、平成29年3月に告示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」を踏まえ、さらに「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」といった意識の醸成を支える取組を、子どもの発達段階に即して具体的に示した奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」を作成しました。

# 奈良県版就学前教育プログラム作成の経緯

## 奈良県の教育課題との関連について

幼稚園教育要領には、「一般に、幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期であることが知られている。」と示されています。この時期に何を体験し、どのような内容に取り組むかは、発達段階やこれまでに経験してきたこと、地域性等を考慮し、目の前の子どもに合わせて計画されるべきものです。

就学前教育・保育を行う場は、幼稚園、認定こども園、保育所など多様化しています。その教育・保育の基となる要領・指針は、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」と施設によって異なります。また、前述の施設に在籍せず、就学前の期間を家庭で過ごす子どももいます。

就学前の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。そこで、県内のすべての子どもたちが、在籍する施設等に関わらず、質の高い教育・保育が受けられるよう、共通する指針として、平成29年度に作成された「奈良県版就学前教育プログラム」を基に子どもの発達段階やそれに応じた関わり方等をまとめ、「はばたくなら」を作成しました。

右表は、平成30年度全国学力・学習状況調査の自尊心、規範意識、学習意欲に関連する項目の本県児

童生徒の平均値をまとめたものです。依然として、本県児童生徒の平均値は全国平均に比べ低く、課題が見られます。

課題	自尊心		規範意識		学習意欲	
関連項目	自分にはよいところがある		学校の決まり（規則）を守っていますか		算数・数学の勉強は好きですか	
校種	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
奈良県	82.6%	75.4%	86.5%	93.8%	60.2%	49.9%
全国	84.0%	78.8%	89.5%	95.1%	64.0%	53.9%
差	-1.4	-3.4	-3.0	-1.3	-3.8	-4.0

(平成30年度全国学力・学習状況調査結果から)

こうした本県の課題の解決に向け、幼児期から継続して取り組むことができるよう、「自尊心」「規範意識」「学習意欲」の向上の視点からプログラムを作成しています。特に、乳児期からの発達の見通しを示すとともに、子ども一人一人が自分のよさを認め、友達と関わりながら主体的に学習に取り組むことができる援助の方法等を示しています。

また、子どもの発達には、家庭との協力が不可欠であることから、家庭と連携する際の参考となるよう、遊びの中での子どもとの関わり方や家庭での関わりのポイントなどを例示しています。

## 「奈良県版就学前教育プログラム」について

「奈良県版就学前教育プログラム」は、平成27年度から奈良県と共同研究を行ってきた京都大学の研究チームが、アメリカのハイスコープ就学前教育カリキュラムの研究から取りまとめた概要より「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」等の視点に該当する指導方法を参考として作成しています。「はばたくなら」においても、この指導方法を踏まえ、特に大切にしたい援助の在り方をまとめています。

### ハイスコープ就学前教育カリキュラムの共通する指導方法

ー保育者は、子どもの主体的な活動、自主性の発達を支援するための足場づくり（環境づくり）をする存在ー

- ①日々の遊びは、子どもが主体。子どもの興味・関心にしたがい、「計画→実行→評価→振り返り」のサイクルを取り入れ、子どもの主体的な学びの能力を養っていく。
- ②日常の活動の中に、保育者主導、子ども主導、多人数グループ活動、少人数グループ活動の時間を取り入れる。
- ③保育者による一方的な「教え込み」ではなく、保育者と子どもを対等な関係として位置付けた相互交流が求められる。
- ④学習スペースとして、「家庭エリア」・「芸術エリア」・「ブロック遊びエリア」・「小さなおもちゃエリア」・「コンピュータエリア」・「読み書きエリア」を区分して用意し、活動目標ごとに利用する。
- ⑤子どもの様子を的確に把握し、状況に応じた働きかけをするように努める。
- ⑥子どもに自らの行為の意味や価値を認識させるため、適切に話しかけ、子どもの行為についてコメントする。
- ⑦子どもの発達により、もう一段階先に進めそうなときには、適切なタイミングで新たな課題を提示する。（「教え込み」ではなく「さりげなく」）

### 「自尊感情」の指導方法

- ①子どもの能力と発達レベルに合わせて、自助スキルの向上を促進する
- ②子どもが次の段階に進めそうなときは乗り越えられる次のレベルを提示する
- ③子どもの主体的な選択と実行をサポートする
- ④子どもの努力と成し遂げたことを認識させる
- ⑤子どもにリーダーになる機会を与える

### 「規範意識」の指導方法

- ①保育者自らが、道徳的な行動モデルとなる
- ②道徳的な問題をシンプルな結果と原因に結び付けて状況を説明する
- ③子どもに道徳的行動について気付かせる
- ④家庭と幼稚園（こども園・保育所）との間に一貫性をもたせるために、保護者を巻き込む

### 「学習意欲」の指導方法

- ①できたことではなく努力に着目する
- ②子どもが新しいことに挑戦したときに肯定する
- ③子どもが不安なく活動するために、学習環境が安全であると知らせる
- ④保育者主導の活動時にも子どもの自主性を奨励する
- ⑤日常の時間において、計画を立てる時間をいつも設定する
- ⑥一日の活動全体を通して子どもが意図的に選択できる機会をつくる
- ⑦子どもの選択や決定に保育者が興味を示す

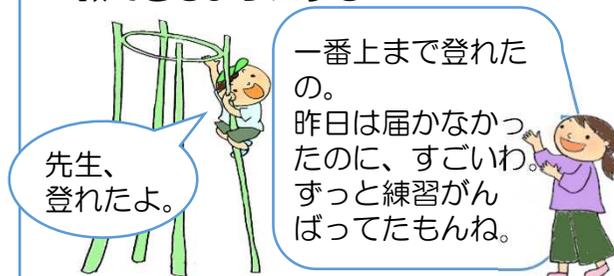
# 「はばたくなら ～奈良県版就学前教育プログラム～」における援助の重点

ハイスコープ就学前教育カリキュラムの指導方法を踏まえ、本県の就学前教育において、特に大切にしたい援助の在り方を示します。幼児期の教育・保育は、「環境」を通して行います。「環境」とは、何を与えるか、といった物質的、空間的なものだけでなく時間や社会的背景も含まれます。中でも最も重要な環境は、教員や保育士等の「保育者」であり、その援助の在り方を考えることが教育・保育の質を高めることにつながります。

改訂版就学前教育プログラム「はばたくなら」においてもこの指導方法を踏まえ、特に大切にしたい援助の在り方をまとめています。

## 1 「自尊感情」を育む援助

- (1) 子ども自らが考え選択したことを認め、試したり行動したりする姿を支える
- (2) 子どもの発達段階を見極め、次の段階に進めそうなときは、少しがんばれば乗り越えられそうな課題を提示する
- (3) 子どもが自分の力でがんばったことと、その結果成し遂げたことを認識できるようにする



自尊感情は「自己の能力への自信」、つまり「やればできる」という自信です。子どもが新しいことに挑戦するときや問題解決に向かおうとするときが最も重要なタイミングです。そのときに必要となるのが大人の働きかけです。

## 2 「規範意識」を育む援助

- (1) 保育者自らが、道徳的な行動モデルとなる
- (2) 道徳的な事象について、簡単な結果とその原因を結びつけて状況を説明する
- (3) 日常にある道徳的な行動を取り上げ、子ども自身が意識できるようにする



基本的な道徳性の発達においては、原因と結果を認識させることが極めて重要です。例えば、「もし本のページを破り取ったら(＝原因)、クラスの誰も本を読めなくなる(＝結果)」という流れです。また、幼児期には、行動の裏にある“意図”に気付けるかどうかも重要です。

## 3 「学習意欲」を育む援助

- (1) 「できた」という結果ではなく、努力した過程に着目する
- (2) 活動の見通しをもたせ、やるべきことややりたいことを自分なりに考え、計画できるようにする
- (3) 子どもが選択や決定ができる機会を意図的につくり、その選択や決定に保育者が興味を示す



興味あることや自分の役に立つことは、自ら学ぶ意欲につながります。意欲的になるにつれて、子どもは自ら選択や決定を行い、思いを強く、目的をもって計画を立てるようになります。そのような活動を支える姿勢が大切です。